

# 万博公園探鳥会

2024年1月13日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美  
有賀憲介・平軍二(090-6901-1425)

明けましておめでとうございます。

今年は災害がなく、鳥見ができる年になることを、願っています。

1/1 能登半島地震発生 M7.6  
(1995年阪神淡路大震災 M7.3)  
↳ M7.6/7.3 ≒ 3倍以上

1/2 羽田空港日航機・海保機 衝突炎上

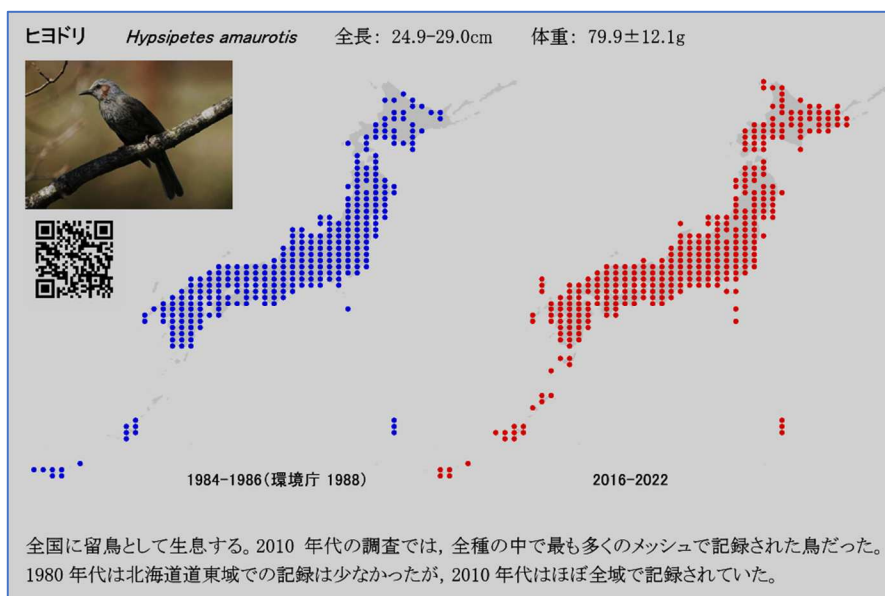
## I千里の鳥・万博の鳥「ヒヨドリ」

新年の千里の鳥・万博の鳥は「ヒヨドリ」にしました。ヒヨドリは体長28cmと、物差し鳥といわれている中では大きい鳥。日本中どこにでもいて、40年目に入る万博公園探鳥会では毎回声を聞いているが、

「なんだ ヒヨドリか？」と姿を見ないまま声のみ聞き流していることが多い。実際の姿は、今月の写真を見ていただくとわかるようにシックな羽模様の素敵な鳥である。



ヒヨドリ 20231213 (田中宏)



### 全国鳥類越冬分布調査報告 2016～2022年 ヒヨドリ (バードリサーチ・日本野鳥の会)

歳時記」と題して、木の実・木の花を利用する鳥について、万博公園での観察を中心に報告した。液果といわれる色のついた木の実25種にヒヨドリが来て、植物の種子分散に協力していること、ウメ・サザンカ・ツバキ・ソメイヨシノの花の蜜を吸い、コブシ・モクレンの花びらを食べることを確認している。木の実・木の花以外では昆虫類、特に良く見るのは夏のセミ、追いかけて鳴いているセミを捕まえるなど、ヒヨドリが万博公園の樹林をフルに活用していることがわかる。

さて、お正月休みに赤い鳥・青い鳥を楽しまれたと思われるが、今日の万博探鳥会では「ピーヨ」の声を聞き、シックな色の姿や波型で飛ぶさまでヒヨドリを確認することから、スタートしたいと思っている。

ヒヨドリは日本では本州以南で一年中、北海道では夏鳥として観察できるが、世界中で見ると日本～台湾にしか生息していないローカル(貴重?)な鳥である。日本でのヒヨドリ餌利用の広さ(木の実・花の蜜・昆虫類)を見ると、世界中に広がっても良いと思われるが、今のところ日本国内では北海道で越冬地が全域に広がり留鳥化しているものの、海外進出はそれほどでもないようである。

平は日本野鳥の会大阪支部むくどり通信の1992年6月号～

1998年11月号に、6年間38回、47種の植物について「植物と鳥の

## Ⅱ 第1回万博公園探鳥会の案内 (千里タイムズ 1985年2月)

万博公園探鳥会は1985年2月にスタートし今年40年目に入るが、千里タイムズ紙には第1回探鳥会から案内してもらった。

その初めての探鳥会案内、どんな鳥が出るかわからないので、最もポピュラーなヒヨドリを、又野芳徳氏の白黒写真とともに掲載していただいた。 →→

### Ⅱ-②探鳥会での観察鳥

むくどり通信 57号 (1985.5)

#### 万博公園探鳥会 (2/16)

《観察した鳥》34種 《参加者》32名  
 カイツブリ、コサギ、マガモ、カルガモ、  
 キンクロハジロ、ヒドリガモ、キジ、バン、  
 キジバト、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、  
 セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、  
 ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、  
 メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、  
 カワラヒワ、イカル、シメ、スズメ、ムクドリ、  
 ハシブトガラス、ハシボソガラス、コジュケイ、  
 ハイタカ、コゲラ。

1985/2/16 探鳥会で観察した34種のリストを見ると、今は**全く観察できなくなった草原の鳥**が記録されています。

**キジ・ヒバリ・ホオジロ・カシラダカ・コジュケイ**



キジ 1990年頃(天筒靖昌氏)

第949号 (第3種郵便物認可)

千里タイムズ

1985年2月

# 万博公園で初の探鳥会 野鳥との出合いを

日本野鳥の会大阪支部



探鳥会で一番見かける『ヒヨドリ』

日本野鳥の会大阪支部では、きたる2月16日(土)に万博公園探鳥会、また翌17日(日)には箕面公園定例探鳥会を開催する。

日本野鳥の会は、先月にくなられた中西悟堂氏の提唱により戦前からつくられている趣味の団体。本部は東京に置かれており、全国50数か所に支部を持ち、会員も1

万3千人を越えている。一方、大阪支部も戦前からある歴史的な組織で、現在、1千人強の会員が加入している。

実際の活動としては、「鳥の声を聴き、鳥を見て楽しむ」という基本理念の下、本部では全国的な自然環境の悪化という社会状況から、特に野鳥の保護に力を入れている。これは、各地方に鳥がすめる環境をつくっていかうというもので、いわば鳥を驚かせず観察できるサンクチュアリー(聖域)の整備。ただ、専門家集団ではなく仕事をしながらのボランティア主体というのが特徴。また、大阪支部も、府下の野鳥の生態系の調査なども行っているが、メインとしているのが、多くの人々に、鳥を見ることによる楽しさを知って

万博公園での探鳥会ははじめてのころみだが、万博10周年記念事業のひとつとして、昭和55年度に「野鳥の森」が整備されており公園全体で約50種類の野鳥が確認され、その内10数種類の野鳥が繁殖しているなど、今では府下有数の野鳥天国。日本野鳥の会では、今回の開催を契機に、万博公園での探鳥会を定例会として位置づけたいとのこと。

万博公園探鳥会は、2月16日(土)午前9時30分、太陽の塔前で集合。公園内をゆっくり見て歩

き、カモ類、サギ類、カラ類などを観察する。都会周辺ではめっきり少なくなったカワセミもよく見られるとか。解散予定は午後2時頃の予定。問い合わせは電06-877-1692、塩田 猛さんへ。また、翌17日(日)の箕面公園定例探鳥会は、午前9時に阪急箕面駅に集合。大阪から最も近い山の鳥の豊庫だけに、カラ類、ワシタカ類、キツツキ類などが見られる。問い合わせは電0727-23-2651、吉村理一さんへ。なお、探鳥会への参加費は一人200円。弁当、防寒具、筆記具、家

### Ⅲ 先月 2023 年 12 月万博探鳥会結果

快晴で穏やかな小春日和、渡来している冬鳥との出会いを楽しみにスタートした。個体数が少なかったが万博公園としては珍しくカモが 5 種と多く、カルガモ・マガモのほか、水鳥の池でオシドリ・コガモ(各 1)、大地の池にキンクロハジロ(1)がいた。期待した冬の小鳥は、アトリ(20)、ツグミ(20)、ジョウビタキ(6)シロハラ(2)、イカル(1)、ビンズイ(1)、アオジ(1)がでた。タカは今日の探鳥会資料に入れたハイタカが 3 羽、そのうち 1 羽は上空でオオタカとのバトルが見せてくれた。人の少ないロシアから渡ってきたばかりのツグミは、人の多い日本に来てクスノキの緑葉に隠れて実を啄んでおり、ナンキンハゼ・アキニレにカララヒワ、モッコクにメジロなど木の実に来る鳥も観察できた。終了後、大矢氏が先月いたクイナ・タシギが今月見つからなかったもので、毎年のタシギポイントを探していたところ、阪大病院へ向かうドクターヘリの音に驚いて飛び出したクイナ 2 羽・タシギ 1 羽を見つけられた。この 2 種追加でトータル 39 種となり、最近 1 年間では最高の種数となった。



↑ツグミ (平 軍二)  
↓アトリ



↑ジョウビタキ♂ ♀  
(田中 宏)



↓キセキレイ ハクセキレイ ↓



### Ⅲ 次月 2023 年 2 月万博探鳥会

2023 年 2 月 10 日 9:30 自然文化園中央口

参加予定の方、今月同様大阪支部 HP ホームズ様式からお申し込みください。

平宛メール [g.0501.hi@gmail.com](mailto:g.0501.hi@gmail.com) 連絡で OK

